

国民健康保険等優良表彰

町では、日頃から健康管理に努められ医療機関にかかることがなかった次の方々を、国民健康保険制度に大きく貢献された優良健康家庭・健康者として表彰し、みなさんの健康を称えました。(平成17年度分・敬称略)

国民健康保険優良健康家庭

1人世帯で2年間(平成15・16年度)全く保険証を使わなかった方々

酒井 陽平(中町)	大塚 和子(本町)	石川 正秋(小松)	大和田正一(大久保)
水戸 光男(大町)	石田 保之(善郷内)	三森 靖吉(一本木)	佐久間文雄(本城館)
塩田 咲子(大町)	渡邊 勝喜(田町)	星 茂樹(小松)	堀井 公一(天開)
渡辺 勝好(本町)	高橋トシ子(八幡町)	宮本 一雄(小松)	小室 健(天開)
遠藤 アキ(大池)	坂本 善男(八幡町)	岩藤 和裕(小松)	太田 美男(沢尻)
伊藤 誠(滝八幡)	森 とよ子(八幡町)	曾野 正吉(東郷)	安瀬 一(沢尻)
斎藤 次男(善郷内)	星野子ヨノ(小松)	小野寺利喜(一本木)	小川 直美(堤)
柳田 康久(北町)	杉田 有司(八幡町)	加藤 春吉(南町)	藤井 繁樹(神田南)
安田 和夫(小松)	渡邊 俊轟(曙町)	長谷川良典(中畑)	内藤 勝之(明新中)
吉田 カツ(善郷内)	青山 清子(曙町)	井戸沼平七(松倉)	

2人以上の世帯で1年間(平成16年度)全く保険証を使わなかった世帯

吉田 昭一(大町)	長谷部正治(善郷内)	土田 和次(新町)	高久 正彦(一本木)
広瀬 辰夫(新町)	遠藤 守(本町)	芳賀 良浩(田町)	小磯 正作(田内)
栗原 義生(本町)	小原 百恵(善郷内)	根本 良夫(大和内)	柴田誠次郎(弥栄)
近藤 尚一(本町)	高原 文江(本町)	根本 正弘(井戸尻)	藤井 智(大久保)
鈴木 勝次(滝八幡)	佐久間吉郎(新町)	大木 貞次(小松)	
常松 正榮(小松)	瀬谷 惣壽(田町)	吉田 貢(小松)	

老人保健優良保健者

2年間(平成15・16年度)全く保険証を使わなかった方々

大槻 助治(北町)	根本 政治(新町)	吉田 アキ(善郷内)	藤田大八郎(八幡町)
芳賀 ユキ(田町)	高橋 ミイ(本町)	荒明 テル(一本木)	佐藤源四郎(大久保)
小椋 房一(東郷)	吉田 兵司(堤)	藤井キヨノ(神田南)	石川 正秋(小松)
関根 千代(谷中)	佐久間 勇(牡丹平)	古山 マサ(善郷内)	小針 俊一(曙町)
高久真之助(中畑)	薄葉 クマ(寺内)	渡辺 春子(新町)	伊勢野菊二(中町)
渡辺 綱喜(滝八幡)	岩間 正治(西長峰)	三村 ヤス(新町)	遠藤 アキ(大池)
伊藤 祐仁(本城館)	水野谷富次(松倉)	長谷部正治(善郷内)	吉田 カツ(善郷内)
長倉 新郎(曙町)	蛭田カツ工(白山)	安藤 和一(沢尻)	須田ユキ子(曙町)
小泉 庄司(新町)	櫻村 勇(本郷町)	岡崎 幸子(諏訪清水)	川上 久子(善郷内)
長尾 智明(田町)	佐久間吉徳(陣ヶ岡)	近藤 敏子(本町)	梅宮 トリ(根宿)
深谷子ヨノ(本町)	小室京三郎(大池)	大野夫美代(小松)	室井 静江(本町)
佐久間キヌ(白山)	泉川 和巳(本城館)	星 吉房(赤沢)	星野子ヨノ(小松)
五十嵐キヨ(中畑)	橋本ユリ子(東郷)	柴田七之助(曙町)	水戸 為雄(根宿)
小泉 美一(大和内)	澤田 耕郎(本町)	小川 マサ(中畑)	高久 伸二(中畑)
安田 辰男(東郷)	大木 重一(中野日西)	高久 ミチ(中畑)	大森 繁子(中町)
熊田 昌幸(本町)	堀井 安(牡丹平)	車田 秀子(曙町)	熊田 サイ(一本木)
小泉 タツ(堤)	金澤 貞雄(大池)	水戸 術(曙町)	

※問い合わせ先 町民生活課国保年金係 ☎(42)2111(内線213)



ご家族の方といっしょに撮られた結婚記念写真

「一度もない」ということで、喧嘩の種がない・・・のだそう、それぞれどんな性格なのか伺ってみると、正敏さんは穏やかな人、俊子さんは何でも言うことを聞いてくれる人だと、それぞれを分析してくれました。俊子さんいわく、女の人が下手に出るのが大切・・・らしいです。

結婚60年を迎え、それぞれへメッセージ・・・。

正敏さんから俊子さんへ「面倒みてもらってありがとう、これからもよろしく・・・。」俊子さんから正敏さんへは「病氣しないで、思いやりの気持ちをもって一緒に生活してください。」とのことでした。

戦争を振り返って・・・。

出兵した正敏さんは、4年ほど仙台や東京、千葉で戦機機の整備の仕事をしていました。俊子さんは先に述べたように家庭を守る立場で、苦労されたと言います。また、俊子さんの実のお兄さんが戦死されたそう、兄弟が集まるたびに当時の話が出るのとこと。

その戦争を振り返って・・・。「日本は世界を相手にバカな戦争をした。」と正敏さん。俊子さんも同じ思いだそうです。

それぞれの結婚60年、それぞれの戦後60年、いかがでしたか？

今回の取材で感じたことは、戦争というものがいかに人々の心に忘れられない、できない傷を負わせたか、ということでした。

そして、そういうものを乗り越え共に歩んだそれぞれの60年は、どんなものにも代えがたい貴重な時間だということでした。

縁あって夫婦となり60年、「ダイヤモンド婚」は誰にでも真似できるものではありませんが、結婚している方も、これからの方も、ぜひ、人生の参考にしていただければ・・・と思っています。